

2009年4月21日

横須賀市長 蒲谷 亮一 様

日本共産党横須賀市議団

井坂 新哉

ねぎし かずこ

大村 洋子

## 原子力空母ジョージ・ワシントンのメンテナンスと 放射性廃棄物の搬出に関する申し入れ

米海軍横須賀基地において、1月5日より原子力空母ジョージ・ワシントンのメンテナンスが行われています。このメンテナンスは、米本国より550人の専門作業員が来日し、5月まで実施されるといわれています。

わが団は日本共産党神奈川県委員会とともに外務省に申し入れましたが、外務省は「日本では原子炉の修理はしない」「放射能管理を必要とする作業はしない」と約束した「ファクトシートの範囲内であり問題はない」との見解を述べています。

しかし、このメンテナンスにかかわって重大な事実が、次々と明らかになっています。

その第1は、外務省が「原子炉の修理にかかわるメンテナンスは行わない」と説明していたにもかかわらず、原子炉と直結する1次冷却系設備の「メンテナンス」も行っていたことが明らかになったことです。

第2は、原子力空母のメンテナンス中に出た低レベル放射性廃棄物約1トが、3月28日、米海軍がチャーターした貨物船に積み込まれ、米国に向けて搬出されたことです。

第3は、米国下院歳出委員会軍事建設小委員会の3月19日の公聴会で、議員の質問に対し、米太平洋軍のキーティング司令官が、日本には、原子力空母に関する「管理産業施設」(CIF)という施設があることを認め、「それが無い場所には原子力空母を恒常的に駐留させることはない」と証言しました。このことは、横須賀基地に、原子力空母の原子力推進プラント(機関)に関連した装置や部品の修理施設が造られていたこととなります。

「管理産業施設」(CIF)は、以前から原子力空母の母港にする場合には不可欠の施設だとされてきました。原子力空母配備に関連した施設として横須賀基地では、岸壁の延長・拡幅、港の浚渫、新たな電力供給施設の建設

などがすすめられてきました。そして、CIF が、12 号バースにつながれたジョージ・ワシントンの艦尾側に浮かぶ複数のバージ(はしけ)に造られていると見られます。同施設の存在は、これまでの約束が反故にされていることがきわめて濃厚であることを示すものです。

これら一連の事実は、日米政府が、これまで「今回のメンテナンスは安全であり、原子炉関連の修理は行わない」と説明しておきながら、事実は、日本国民を欺いて横須賀で原子炉にかかわる修理を行っていたことを示すものです。

そこで、下記の点を明らかにするよう求めます。なお、回答については書面で回答いただけるよう求めます。

## 記

1、メンテナンス作業の全容の公開を米軍に求め、市民に明らかにすること。また、今まで原子力空母のメンテナンスに係わって米軍から日本政府並びに横須賀市長に寄せられた報告・情報について日付を含め内容をすべて公開すること。

2、今回のメンテナンス作業で米軍は1次冷却システムのメンテナンスをしたことを認めている。横須賀市は、今回のメンテナンス作業がファクトシートの範囲内とした根拠を明らかにすること。

3、国は外務省発行のパンフレットや3月24日の国会答弁において、「アメリカ側から累次説明を得ておりますのは、放射能管理を必要とする作業というものはやらないんだということであります」と述べ、今回のメンテナンスは放射能管理のない作業としています。ところが、現に放射性物質の搬出がおこなわれており、それ自体が放射能管理を必要とする作業です。また、1次冷却システムのメンテナンスを放射能管理なしでおこなわれたとするとどのようになされたのか明らかにすること。

4、1次冷却システムのメンテナンスにおいて、冷却水を取り出したと思われるが、その冷却水はどのように処理されたのか明らかにすること。

5、放射性廃棄物の搬出について新聞報道によると、横須賀市はファクトシートの範囲内と述べているとのことだが、エード・メモワールには、「固形廃棄物

は、承認された手続きに従い、通常の原子力潜水艦によって合衆国の沿岸の施設又は専用の施設船に運ばれたのち、包装されかつ、合衆国内に埋められる」また「放射能にさらされた物質は、通常、外国の港にある間は、通常の原子力潜水艦から搬出されることはない。」となっている。ファクトシートは、エード・メモワールの上に成り立っていることを考えれば、今回の搬出は、これらの規定に明らかに違反していると思うが、市がファクトシートの範囲内とした根拠を明らかにすること。

6、管理産業施設(CIF)の設置の有無、CIFが具体的にどこに造られたのか、その中で何が行われていたのかなど、その全容を明らかにするよう米軍に求めるとともにCIFの全容を明らかにすること。

7、今回のメンテナンス、廃棄物の搬出、CIFの設置など明らかな約束違反に対し、米軍に厳しく抗議すること。また、1次冷却システムを含む原子炉のメンテナンス、放射能管理を必要とするメンテナンスを今後一切行わないよう求めること。

以上

今回のメンテナンス問題で明らかになった事実などを踏まえ、改めて原子力空母の母港化の危険性を再認識するとともに原子力空母の横須賀母港化撤回を強く要求するものである。これからも引き続き、私たちは核も基地もない平和な横須賀・日本をつくるため、市民はもとより国民のみなさんと力合わせて奮闘する決意を表明するものである。